いわた ふるさと散歩

見付編
磐田文化財マップ

見付天神裸祭

悉平太郎像

東海道・見付宿

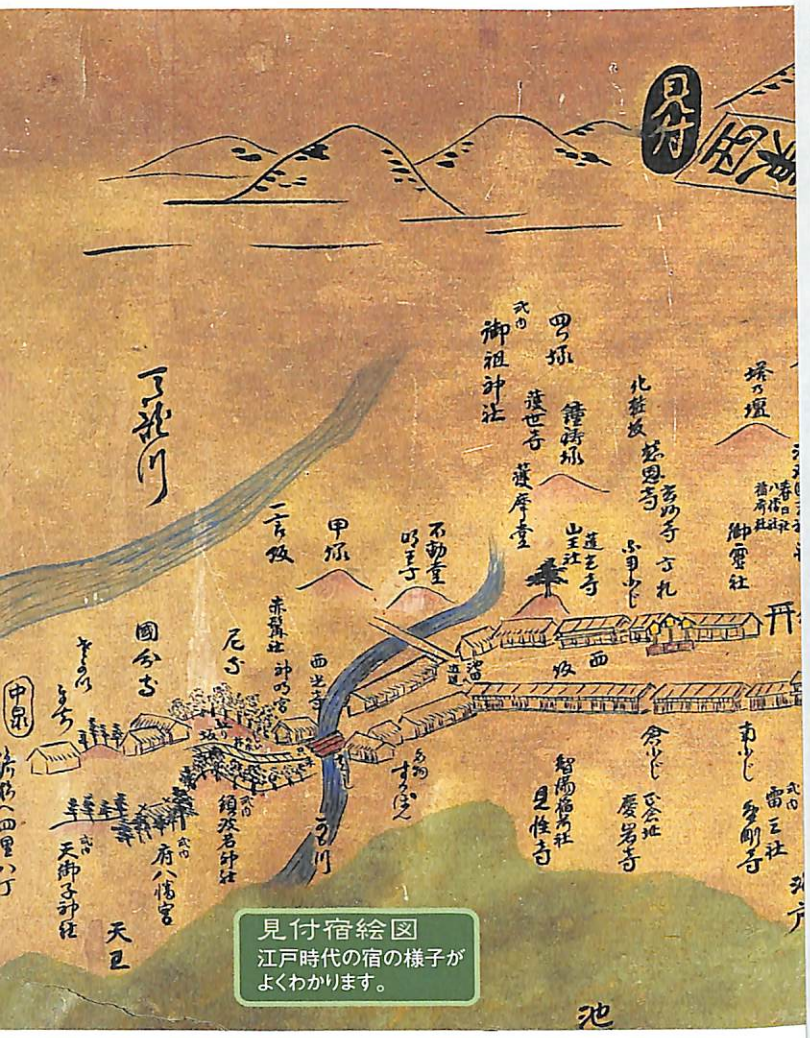
―見付地区の文化財―

見付地区は磐田市の中央に位置し、古くから東国と京を結ぶ宿として栄えました。平安時代に国府が置かれ、中世に至るまで、遠江の政治・経済の中心でもありました。鎌倉時代の紀行文にも「みつけのこふ」「見つけの府」の名が見られます。室町時代には町人による自治も認められ、多くの文化人が来訪しています。見付のまちは狂言「磁石」にも出てくるように、東西に長い宿場町でした。江戸時代にも宿場として大いに賑わいました。この見付には、その歴史を物語る文化財が多く伝えられています。

磐田市と駒ヶ根市を結ぶきずなとなった「悉平太郎（しっぺい）」もこの見付に伝わった伝説です。悉平太郎は信州赤穂村（今の駒ヶ根市）光前寺に飼われていた名犬で、若い娘を人身御供（ひとみごくう）に要求する怪物（一説にはヒヒ・大猿）を退治したと伝えられています。

江戸時代の見付

見付宿は東を三本松、西を境松・一本松を境とし、南は今之浦に面しています。江戸から約60里、京へは約70里の東海道のほぼ中間に位置し、袋井宿から1里半、浜松宿からは天竜川の渡し（池田の渡し）を経て4里8町の行程です。見付は東海道の宿場町として、早くから整備されました。



見付宿絵図
江戸時代の宿の様子がよくわかります。

宿の中央には本陣や旅籠、商屋が並び、宿の外れではうどんや饅頭を売る茶店がありました。宿の奥にも民家や寺院・神社があり、横道によって街道に出ることができました。この横道を小路（しょうじ）と呼び、玄妙小路、寺小路、宮小路など古寺や神社を由来とした名がつけられています。天保14年（1843年）には本陣2軒、脇本陣1軒、旅籠56軒があったと記録されています。

明治時代の見付

明治期に磐田原の開墾が進み、見付には磐田原への玄関口として、物資が集まりました。磐田原で栽培された葉煙草も、見付で加工・生産されました。明治時代を代表する建物には、旧見付学校や旧赤松家の門・塀・土蔵などがあります。

磐田原開拓の先覚者　赤松則良（のりよし）

赤松則良は咸臨丸で渡米し、のちにオランダ留学を経て、明治政府のもと近代日本の造船技術の先駆者として功績をあげました。大政奉還後には、徳川家ゆかりの磐田原の開拓も進め、主な公職を退いた明治26年（1893）、見付に本籍を移し屋敷を建てました。残されている建物には門・塀・土蔵があり、明治の面影を残すレンガを巧みに積み上げた門や塀は、県・市の文化財に指定されています。

屋敷跡には、赤松家ゆかりの品々の展示などをした記念館も建てられています。

旧赤松家　門・塀・土蔵

教育のあけぼの　旧見付学校

旧見付学校は明治8年に落成・開校式をあげた、現存する日本最古の木造疑洋風小学校校舎です。明治16年に3階部分を増築し、5階の建物となりました。現在は教育資料館として、教育関係の資料を中心に展示をしています。当時は最上階に「伝酒井之太鼓」が置かれ、時を告げていました。伝酒井之太鼓は三方原の合戦の際、浜松城で酒井忠次が打ち鳴らしたと伝えられる太鼓です。

旧見付学校の北側には、総社の神官であった大久保忠尚が元治元年（1864年）に創建した磐田文庫があります。磐田文庫は今の図書館のような存在で、一般にも開放されました。旧見付学校とともに国の史跡に指定されています。

磐田文庫

旧見付学校

東海道・見付宿

一の谷中世墳墓群

一の谷中世墳墓群遺跡は、中世（今から800年～400年前）の見付に暮らした人々が葬られた墓地です。丘陵上に、800以上の墓が造られました。墓の種類には、土を盛った塚墓、石で囲った集石墓や土坑墓などがあります。その一部は一ノ谷公園に移築・復元されています。

一ノ谷公園

兜塚古墳とクロガネモチ

かぶと塚公園に、兜塚古墳があります。兜塚古墳は古墳時代中期（1,550年前）に造られた直径80m、高さ8mの円墳です。円墳では県内で最大の大きさです。その姿が兜に似ていることからその名がつきました。戦時中に中心部から鏡や玉類が出土しています。

かぶと塚公園の北側には県内最大のクロガネモチが生育しています。県の天然記念物に指定されています。

兜塚古墳出土　変形神獣鏡

栗田家（旧栗田煙草合資会社）土蔵群

5棟の土蔵は明治初期から昭和初期にかけて順次建設されたと思われます。かつて磐田を代表する産業であった煙草業に使用されました。現在ではほとんど見られなくなった貴重な近代産業遺産で、かつての見付のたたずまいを残しています。（市登録文化財）

栗田家（旧栗田煙草合資会社）土蔵群

姫街道（池田近道）

見付宿から西に向かう小道があります。この道は天竜川の池田渡しで東海道と合流することから、池田近道と呼ばれていました。また、この道が浜名湖を迂回する本坂街道（姫街道）に通じることから、いつの頃からか、姫街道とも呼ばれるようになりました。江戸時代には多くの旅人がこの近道を利用しました。

姫街道（池田近道）

省光寺のイチョウ

根回り18.7m、樹高15.4mを測る推定樹齢240年のイチョウです。街中に残るイチョウの古木は数少なく、市の指定文化財として地域の人々に大切にされています。

省光寺のイチョウ

慈恩寺の雲板

雲板とは食事を僧侶に知らせるために打ち鳴らした板のことで、雲の形に似ていることからその名がつきました。慈恩寺に伝わる雲板には応永26年（1419年）の銘があります。

慈恩寺の雲板（市指定）

淡海国玉神社

見付宿の中央にあることから「中のお宮」と呼ばれています。遠江の総社として崇拝されました。創建は不詳ですが、平安時代の記録にもその名が見られます。

本殿は明暦2年（1656年）に建てられたもので、拝殿・幣殿とともに市の文化財に指定されています。また、見付天神裸祭では、深夜に矢奈比賣神社から神輿が御渡します。

淡海国玉神社

平安時代の華麗　宣光寺の仏像

宣光寺には、県の文化財に指定された2体の仏像が伝わります。地蔵菩薩坐像と毘沙門天立像で、平安時代後期に作られたものです。

地蔵菩薩坐像は延命地蔵とも呼ばれ、永暦元年（1160年）の銘が残っています。左足を下げ、手には宝珠と錫杖を持ちます。毘沙門天立像は邪鬼を足元に踏み、鎧の装飾もみごとに表現されています。ともに鮮やかな彩色を施しています。

この他にも木喰上人作と伝えられる子育如来像、子育地蔵像や天正15年(1587年)に徳川家康が寄進した釣鐘、安永5年(1776年)に奉納された和算額などが残されています。釣鐘には「源家康」の銘を見ることができます。

地蔵菩薩坐像（県指定）

塔之壇の経塚

塔之壇には平安時代に造られた経塚がありました。経塚は末法思想の影響を受け、仏典を後世に伝えるために造られました。塔之壇に造られた経塚からは、経典を納めた銅製の経筒や外容器である陶器、中国製の磁器、和鏡が発見されました。

塔之壇から出土した経筒・磁器

阿多古山一里塚

東海道が整備された江戸時代に1里（約4Km）毎に塚を築いて距離の目印としました。これが一里塚です。阿多古山一里塚は街道の両側に残る一里塚で、市の史跡に指定されています。見付宿を一望できる愛宕神社裏手と、道を隔てた北側に造られました。

阿多古山一里塚（北側）

城之崎城と福王寺

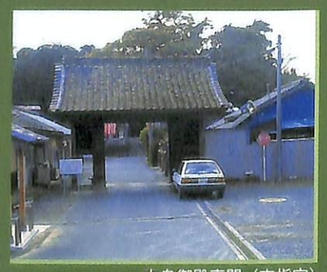
城之崎城は、永禄12年（1569年）に徳川家康の命によって築城を開始しましたが、翌年に中止になった未完の城郭です。城山球場の周辺に土塁などが残っています。

この城の南にある福王寺には、平安時代の陰陽師・安倍清明の伝説が伝わります。境内裏の竹藪には珍しい腐生植物のアキザキヤツシロランが群生し、境内南寄りには平地にあるものとしては県内最大規模のケヤキがあり、いずれも市の指定文化財です。本尊は、平安時代に作られた聖観音菩薩立像です。また、朱塗りの総門は、江戸時代に建てられた3間1戸の薬医門です。

聖観音菩薩立像（市指定）

中泉御殿の表門　西光寺

西光寺の表門は、徳川家康の別荘であった中泉御殿の表門を移築したものです。3間1戸の薬医門の形で、17世紀に造られたものです。境内には大クスやイヌマキの巨木があります。また、見付宿本陣家の墓所や薬師如来像など市指定の文化財が多く残されています。

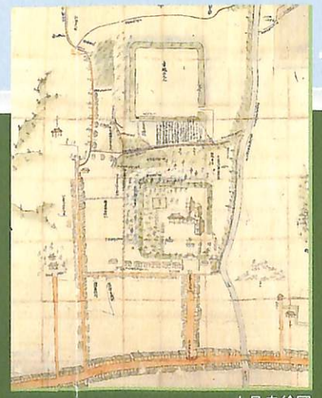


中泉御殿表門（市指定）

縄文時代のムラ　見性寺貝塚

見性寺境内には、縄文時代にムラが営まれていました。発掘調査では貝塚も発見され、入江であった今之浦から、魚や貝類をさかんにとっていたことがわかりました。

見性寺には『繍十六羅漢図』や『五鈷鈴』、『不動三尊像』などの市指定文化財が伝わっています。発掘調査でも中世の陶磁器が多く出土し、古くから寺が置かれていたことが知られます。また、日本左衛門と伝えられる墓があります。



大見寺絵図

見付端城と大見寺

見付の中央、大見寺から磐田北小学校にかけて中世の城館である見付端城がありました。大見寺に伝わる絵図には、土塁と堀が描かれています。その土塁の一部は大見寺の西側に残っています。

大見寺には徳川家光上洛のための休息場、お茶屋御殿が造られました。後陽成天皇の皇子である良純法親王、グライダーに似た飛行機で世界で初めて空を飛んだ浮田幸吉の墓があります。

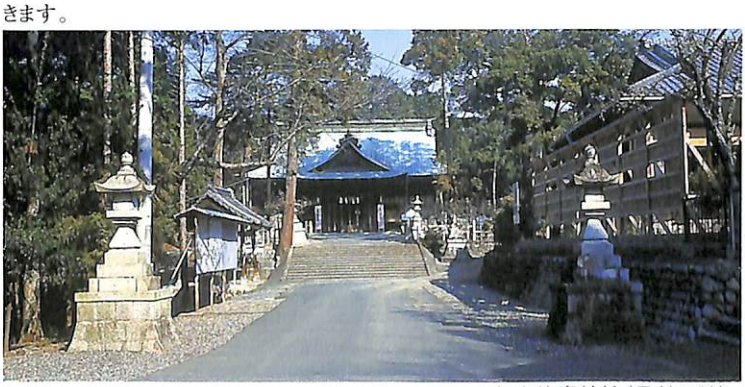
磐田市概略図

1.獅子ケ鼻公園
2.豊岡駅
3.社山城
4.豊岡総合センター
5.米塚古墳
6.銚子塚古墳・小銚子塚古墳
7.長者屋敷遺跡
8.新豊院山古墳群
9.磐田市立総合病院
10.磐田スポーツ交流の里ゆめりあ
11.磐田インターチェンジ
12.豊田パーキングエリア
13.鶴ケ池
14.桶ケ谷沼
15.甑塚古墳
16.熊野の長フジ
17.アミューズ豊田
18.旧赤松家記念館
19.埋蔵文化財センター・中央図書館
20.矢奈比売神社（見付天神）
21.旧見付学校
22.かぶと塚公園
23.京見塚古墳
24.遠江国分寺跡
25.磐田市役所
26.府八幡宮
27.善導寺大クス
28.城山球場
29.ヤマハスタジアム磐田
30.香りの博物館
31.松林山古墳
32.医王寺
33.堂山古墳跡
34.大池
35.静岡産業大学
36.なぎの木会館
37.はまぼう公園
38.ゴルフ場
39.掛塚港跡
40.竜洋海洋公園

見付天神裸祭と悉平太郎像（しっぺいたろう）

見付天神裸祭は、矢奈比賣神社の祭神が、遠江の総社である淡海国玉神社へ御渡する神事を中心とする祭で、旧暦の8月10日直前の土・日曜日に行われます。神輿の御渡に先立ち、サラシと腰蓑を身に付けた裸姿の男達が乱舞することから、「はだか祭」と呼ばれています。この祭は国の重要無形民俗文化財に指定されています。

矢奈比賣神社は見付天神とも呼ばれ、「延喜式」（延喜5年　905年）にも記載されている古社です。怪物を退治した悉平太郎の伝説の舞台ともなり、参道には悉平太郎の像が建てられています。矢奈比賣神社は怪物が隠れ住む伝説にふさわしい「天神の森」に囲まれ、境内には塔の礎石など神宮寺の痕跡も見ることができます。



矢奈比賣神社（見付天神）

発行・編集　磐田市教育委員会文化財課
〒438-0086　静岡県磐田市見付3678-1　TEL0538-32-9699
発行日　平成15年11月25日　平成25年2月改訂